

会 議 録

会議の名称	第 2 期 小金井市地域自立支援協議会（第 9 回）
事務局	福祉保健部 障害福祉課、地域生活支援センターそら
開催日時	平成 22 年 12 月 20 日（月） 午後 2 時 00 分から午後 4 時 00 分
開催場所	前原暫定集会施設 A 会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>伊藤良子委員(会長)、矢野典嗣委員（副会長）、山田満里子委員、山田正市委員、吉沢幸子委員、中村悠子委員、斎藤修委員、富澤淳一委員、大久保昌弘委員、枡本敬子委員、森田純司委員、佐久間育子委員</p> <p>【事務局】</p> <p>障害福祉課障害福祉係 藤井知文 障害福祉課相談支援係長 高田明良 障害福祉課障害福祉係 川村昌弘 地域生活支援センターそら 施設長 熊倉弘子、伊藤奈保子</p>
傍聴の可否	可
傍聴者数	0 人
会議次第	別紙会議録のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	添付のとおり

**第 2 期 第 9 回小金井市地域自立支援協議会
議事要旨**

日時：平成 22 年 12 月 20 日(月) 14：00～16：00

場所：前原暫定集会施設 A 会議室

出席者：協議会委員 12 名

障害福祉課障害福祉係長

障害福祉課相談支援係長

障害福祉課障害福祉係

地域生活支援センター そら（2 名）

配布資料 1： 小金井市障害者計画・障害福祉計画に関する市民アンケートについて

（障害のある人向け）

2： 小金井市障害者計画・障害福祉計画に関する市民アンケートについて

（市民向け）

3： 小金井市障害者計画・障害福祉計画に関する市民アンケートについて

（障害者関係団体向け）

4： 障害者計画策定のためのアンケート《障害福祉関係事業所》

5： 市民アンケート（障害のある人向け）修正案 → 矢野副会長

6： 個別の教育支援計画の活用 → 矢野副会長

7： 第 2 期自立支援協議会 これまでのまとめ

8： 小金井市の教育・福祉体系（資料 1）

9： 小金井市保健福祉総合計画策定スケジュール

10： 障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律の概要

11： 第 2 期 小金井市自立支援協議会（第 7 回）議事要旨

12： 第 2 期 小金井市自立支援協議会（第 8 回）議事要旨(仮)

1. 開会

事務局（高田係長）	・開催にあたり、配布資料の確認。
-----------	------------------

2. 議題

（1）小金井市障害者計画・障害福祉計画に関する市民アンケートについての協議

伊藤会長	・議題に入る前に、アンケート作成を委託しているジャパン総研（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所）の紹介をお願いしたい。
事務局（高田係長）	・小金井市保健福祉総合計画策定にあたり、障害部門を担当するジャパン総研の担当者を紹介する。
ジャパン総研（井口氏）	・今後の各部会と策定委員会に出席する予定。よろしくをお願いしたい。 ・同じくジャパン総研の赤井氏を紹介（本日の議事録関係を担当）。 ・主な担当者として、金沢という女性の職員が務めるが、本日は事情により欠席であることを伝える。

伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のテーマである小金井市障害者計画・障害福祉計画に関する市民アンケートについての検討に入る。今回のアンケート調査は、①障害のある人向け②障害者関係団体向け③市民向け④事業所向けの 4 種類に分けられている。その中で、①と③の 2 種類について委員より修正の検討部分が挙げられている。 ・まず、市民向けアンケートから検討に入る。3 点あり、そのすべてが設問の回答の選択肢を増やすという修正についての検討となっている。 ・1 点目は、市民向けアンケートの P.3 の最終設問の回答に「学校教育で学んだ経験が多いので」という項目を増やすという意見。 ・2 点目は、P.5 問 9 設問の回答に「障害のある人もない人も皆同じ人間だと思うから（話したことがあると答えた人の理由）」を増やすという意見。 ・3 点目は、P.6 問 13 設問の回答に「障害のある人が働いているお店で買い物をする」を増やすという意見。 ・上記 3 点についてのご意見をお願いしたい。
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ P.3 について。経験が多いか少ないかについては、回答が難しいと思われるため「・学んだ経験があるので」という表現にしてはどうか。
一同	<ul style="list-style-type: none"> ・異議なし。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・修正し、追加する。 ・問 9 について検討する。
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のアンケートは、前回のアンケートを基本にし、作成してもらっている。問 9 については、前回と全く同じ内容の設問となっている。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・比較するためにもできるだけ同じ内容の設問とした方がよいのか。
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・修正する必要がなければそのままでよいが、出された意見のような選択肢はこれまでなかった。 ・話や手助けすると並列することで分かりにくさを招くのではないかという懸念はある。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の難しさは感じている。
山田満里子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然としてしまうので、この表現はなくてもよいのではないか。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・問 9 の意見については削除する。
一同	<ul style="list-style-type: none"> ・異議なし。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ P.6 問 13 について検討する。限定的な表現になってしまっている。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・同感。
枡本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・商いをやっている人に障害のある人との交流活動の場としての発想はないのではないか。この選択肢はなくてもよいのではないか。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・設問と合っていない選択肢となっている。削除の方向でよいのか。
山田満里子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢としてあってもよいのではないか。ただ、飲食店も増えているので、「買い物をする」という表現ではなく、「・お店等を利用する」という表現にしてはどうか。私自身も交流活動と思って、障害のある人が働いているお店を利用しているところはある。
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・山田満里子委員が修正した内容で、選択肢として増やしてもよいと思う。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を「・お店等を利用する」とし、残す形としたい。
一同	<ul style="list-style-type: none"> ・異議なし。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、障害のある人向けアンケートの検討に入る。 ・ P.2 問 2 設問の年齢修正について検討する。
山田正市委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 65 歳以上の年齢が、58.4%となっている。半数以上との結果に驚いた。年齢

	の区分を増やした方がよいのではないかと思います。
伊藤会長	・ 前回の結果では、75 歳以上が 34.5%。高齢化が進む中、年齢区分を一つ増やすことについてはどうか。
ジャパン総研 (井口氏)	・ 年齢からの分析を行なうのであれば、提案のある分け方にした方がよい。ただ、表現としては「75 歳～80 歳」「81 歳以上」という形が高齢の分け方となっている。
伊藤会長	・ 「75 歳～80 歳」「81 歳以上」とし、選択肢を設定したい。
一同	・ 異議なし。
伊藤会長	・ P.3 問 8 について検討する。持ち家に戸建と集合住宅に区分するという意見が出されている。
山田正市委員	・ 選択肢 2.に「アパートなど民間の借家」とあるが、個人所有の集合住宅もあるため、その選択肢も入れた方がよいのではないかと考えた。
佐久間委員	・ 選択肢として分けるのであれば、クロス集計で、持家で戸建の方がどのようなことに困っているのか等、形が示せればよいと思う。 ・ 例えば、重度の知的に障害のある人がマンションに住んでいる場合、隣接している集合住宅では、近隣への配慮が必要となる等ある。そのような状況を見ていくことができるクロス集計であれば必要だと思う。アンケートの結果から何を求めるかにもよるのではないかと。
山田正市委員	・ P.17 問 41 にあるような状況では、戸建の家とマンションによっては違いが出てくると思う。
伊藤会長	・ 近隣との関係についてのことか。
山田正市委員	・ その通り。
伊藤会長	・ 騒音対策の問題もあるので、戸建と集合住宅を比較するのはよいと思う。しかし、近隣関係については、どちらも問題はあると思われる。
矢野副会長	・ 推進協議会の方では、自分の持ち家なのか家族の持ち家なのかという表現が出されている。障害のある人自身が、所有しているのかどうかを見るためのアンケートとなっている。自立支援の給付のところで影響が出てくる内容なのかもしれない。ただ、小金井市のアンケートでそこまで追求する必要があるのかどうか。分けた場合、後のアンケートにどこまで反映させていくのかということが必要になってくる。 ・ 隣近所との関係については、戸建と集合住宅では大きな違いはないと思われる。P.17 の設問では、そのような問いかけはしていないため、はっきりとは見えてこないと思われる。
伊藤会長	・ 前回の結果では、持ち家が 64.2%と高い数値のため、分けてみてもよいのではないかと。
ジャパン総研 (井口氏)	・ 自立支援協議会の中で決定されれば、分けた形で選択肢を記載することは可能。クロス集計も可能。
伊藤会長	・ 自分の持ち家（一戸建て・分譲マンション）と家族の持ち家（一戸建て・分譲マンション）に分けて記載することにしたい。
一同	・ 異議なし。
伊藤会長	・ P.3 問 9 設問の家族構成の記載の仕方について検討する。
矢野副会長	・ アンケートを見た時に、回答のしやすさが必要だと感じた。別紙（矢野副会長作成の市民アンケート修正案）にて記載している通り、家族構成を「1.配偶者 2.親 3.子」のように記載し、あてはまるものすべてに丸をつけてもらう形の方

	<p>が回答しやすいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その後の設問として別紙の通り検討した。「今後どのように暮らしたいと考えていますか」というような設問を加える。住宅対策についての設問はあるが、施設整備の内容。どのような暮らしを希望するのかという設問がない。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・あてはまるものすべてとなると、集計はダブルカウントになる。いろいろな組み合わせができることになる。それが妥当か。
ジャパン総研 (井口氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢の 1.~3.がもう少し整理されるとよいと思われる。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者がどの立場でいると回答しやすいのか、ということを考えた。 ・その人を中心にして、親か子供か兄弟かということになるのかと思った。
事務局（高田係長）	<ul style="list-style-type: none"> ・この部分を細かく分けてしまうと集計の仕方が難しくなると思われる。例えば、父母と祖父母と暮らしている場合、父母を 1 カウント、祖父母を 1 カウントでいくのか、それとも設問は細かく表記し、集計する時に核家族として表記をまとめるのかという 2 つの方法がある。 ・後者は、データをまとめる際、1 件 1 件集計する必要があるため、集計が大変になる。 ・前者は、個別バラバラになってしまう。それぞれに集計が入るため、全体をとらえる時にその世帯がどのような世帯なのかわかりにくくなってしまう。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢が 4 種類しかないのが問題なのではないか。もう少し具体的に表記してはどうか。ひとつの選択で済む形の方が集計はしやすいはず。 ・他に想定できる組み合わせがどのくらいあるのかということは問題にはなる。あまり多くなってしまうても大変なこと。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、選択肢 3.の三世代同居が一人っ子を想定しているのか、兄弟がいても核家族なのか、その辺りの説明があれば違うか。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・かつて同居をしていた、あるいは戻る先としての同居を想定するのであれば、そんなにたくさんのパターンは出てこないと思われる。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族という表現に引っかかってしまった。 ・答える人が回答を迷うような形では困る。障害のある人が回答しやすい形を取りたい。
富澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・父母と言ってもひとり親の人も父母に丸をすることになる。だとすれば、この辺りについても分ける必要があるのではないか。
ジャパン総研 (井口氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のアンケートでは、その他の回答が 12.3%と出ている。その辺りも含めて選択肢を検討した方がよいのではないか。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・集計のしやすさと家族構成の実態を浮き彫りにできるアンケートで、当事者が回答しやすい方法を検討したい。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「あなたと親」とか「あなたと兄弟」という形の表記にしてはどうか。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・その表記の仕方によると細分化されすぎてしまい、いろいろなパターンを想定しなければならない。
ジャパン総研 (井口氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・「あなたを中心にしてお答え下さい。」と設問には表記している。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「あなたを中心に」というところから、核家族がどのような形態なのか選択することは難しいのではないか。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の関係上、事務局とジャパン総研で表記の仕方を検討したい。 ・P.4 の問 11 (3) についての検討へ移る。

矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙（矢野副会長作成の市民アンケート修正案）にて記載。問 11 に（4）（5）を追加する内容を表記。 ・（3）は、設問を「外出のときにどのような支援が必要ですか。」に変更。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・大幅な修正案が出されたが、矢野副会長の提案の方が回答しやすいという印象を受けた。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・施策として反映できないものを表記することはどうなのかということもある。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・設問もその選択肢も、共にその分量多すぎて、障害のある人が回答するには負担感があるのではないかな。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつの質問に 6 つ程度の選択肢にしたいと思う。内容を分けて聞いた方がよいのではないかな。
森田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・身体に障害のある人は、知的や精神と異なり、移動支援の利用ができない。自走式の車いすを利用している場合、自分で移動できるという考え方になるのかもしれないが、小金井市の地理は坂が多くそうとも限らない。その実態を確認できるような設問があるとよいのではないかな。 ・視覚障害の方など、移動支援のサービスが十分足りているのかということが感じられるため、その意見を聞けるような設問があるとよいと思われる。 ・福祉サービスを検討する中で実態を知ることは必要となるし、サービス量の問題もある。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・適当に丸をつけてしまうような選択肢ではなく、整理して表記した方がわかりやすいと思う。 ・アンケートを受け取った時、自分でも総量がとても多く感じた。もう少し軽い形のアンケートにした方がよいのではないかな。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・矢野副会長の提案に沿う形で設問と選択肢を変更する。 ・心理的な内容についてはどうか。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・このような質問自体、必要なのか。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の結果から、「交通事故に遭うのではないかと不安」については 18.5%と高くあるが、その他に関しては少ない結果となっている。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この結果は、歩道がきちんと整備されていないことや交通量の多さなど小金井市の状況から伺えるもの。それをどう反映させたらよいのか。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前の様々な設問に関係している内容であり、ここまで問う必要があるのか。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね矢野副会長の修正内容(別紙)としたい。
一同	<ul style="list-style-type: none"> ・異議なし。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・P.5 問 13 設問についての検討に移る。
山田正市委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「9.家族など介助者の健康状態が不安」と新たに追加した「10.家族など介助者との人間関係がよくない」という選択肢は並列した方がよいのではないかと考えた。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・回答のしづらさがあるのではないかな。
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し大雑把な内容にしてはどうか。回答することで差し障りのあるような内容は避けた方がよいのではないかな。
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢を設定せず、その他のところで記入してもらう形でよいのではないかな。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢として追加しないということによいか。
山田正市委員	<ul style="list-style-type: none"> ・了解する。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・問 14 について検討する。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢に「相談支援センター」に関しての記載が抜けているのではないかな。

佐久間委員	・相談支援機関とは、どこのことなのか記載しておく必要があるのではないか。
伊藤会長	・相談支援機関として「地域自立生活支援センター」「地域生活支援センターそら」の2か所をカッコ書きして選択肢を追加する。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・問 16 の選択肢に「障害者福祉のてびき」を追加することについて検討する。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・問 18、問 19 について検討する。
事務局（熊倉施設長）	・矢野副会長からの寄せられた意見を事務局で検討し、設問を作成し追加表記した。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・災害時についての意見が出されていないが、問題はないか。
森田委員	・災害時要援護者名簿についての設問を追加したい。問 19 を P.5 の成年後見制度と同じような形で示すのはどうか。災害時要援護者名簿の説明を記載してから設問にしたほうが回答しやすいのではないか。
佐久間委員	・「災害時要援護者対策の手引き」の内容は、市のホームページでアップされているが、不十分な点もあり積極的に配布している段階ではない。
伊藤会長	・実情に合わせて、選択肢を追加する。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・P.8 の住宅対策について検討する。
山田満里子委員	・その他に記入してもらう形でよいのではないか。
伊藤会長	・選択肢が増えることは避ける形とする。P.8 の騒音対策については削除し、その他の選択肢に含む形としたい。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・問 24 についての検討をする。
矢野副会長	・解釈に難しさを感じた。わかりやすいように質問した方がよいとは思っているが、表現が浮かばなかった。委員の皆さんから意見をお願いしたい。
ジャパン総研（井口氏）	・矢野副会長からの提案されているカッコ内の「作業所や福祉工場等々」をそのままを表記する形にしてはどうか。
矢野副会長	・特例子会社など様々な形態があるため、その表現に悩んだ。
斎藤委員	・作業所にしても福祉工場にしても障害のある人のための働く場。その意味で表記するのか。特例子会社となれば、一般就労の働く場となる。 ・内容によっては、選択肢 1 に含まれてしまう可能性もある。
吉沢委員	・選択肢 2.は、すでに働いている人の施設が働きやすくなっているという内容。 ・選択肢 12.は、まだ働くことができていないが、これから進出していく場所などが整備されているという内容。
矢野副会長	・選択肢 12.を「多様な働く場が用意されていること」にしてはどうか。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・選択肢 2.は「障害のある人に配慮した職場になっていること」にしたいがどうか。
大久保委員	・選択肢 12.がこの質問に入っていることにより、わかりにくさを感じる。性質が異なる内容。障害のある人ばかりが就労する場という感覚で捉えると、それ以外のそうではない場所がどのように変わってほしいのかということが明らかにならない。
矢野副会長	・問 25 として新たに設けるか。

伊藤会長	・次の質問に働く場の希望を問う設問がある。
大久保委員	・施策を実施していく中で、どちらの方向がいいのか。
矢野副会長	・質問 24 は条件整備の内容。
大久保委員	・作業所や福祉工場のような場所をもっと増やしてほしいという要望を施策に反映させるのか、あるいはそうではない場所により障害のある人が入りやすくするためにどうしたらよいのかという部分なのか。行政の支援等含めて選択肢に反映させる必要がある。
矢野副会長	・次の質問に若干ではあるが内容が含まれている。
大久保委員	・両方が入ってしまっているため、複雑になっているのではないかな。
矢野副会長	・選択肢 12. をなくし、次の質問に含める形の方がよいのか。
吉沢委員	・作業所や福祉工場等だけではなく、やはり一般の働ける場所も必要。選択肢 12. の内容は必要だと思うため、文言を修正し表記した方がよいのではないかな。
伊藤会長	・「多様な働く場が用意されていること」として表記する。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・P. 13 問 30 について検討する。
山田正市委員	・この設問は、拘束されない時間の使い方という内容になる。0～17 歳の学齢期というのは、学校へ通っている人という意味なのか。
伊藤会長	・幼児も含まれる。
佐久間委員	・趣味とサークル活動が一緒の選択肢になっているので、わかりにくいのではないかな。
伊藤会長	・問 30 の選択肢 6. を「趣味やサークル活動」として記載する。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・問 31 の選択肢 6. も同様に「趣味やサークル活動」に修正する。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・P. 17 の問 43 の設問の頭に「今後」と記載することでよいかな。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・介助者側の状況についての設問が不足しているという意見が議論の中で出されたと思うが、聞き取れる設問が必要なのではないかな。
矢野副会長	・介助者側の聞き取りとなると、本人を経由しない回収の方法が必要になる。関係機関に代弁してもらう形をとるのか、介助者側のアンケートが別に必要となるのか。
山田満里子委員	・本人が回答できない場合は介助者側の家族が代筆することになる。本人は困っていないが、介助者は困っていることも多くある。周りの目が気になるのは介助者側のことであり、本人の気持ちで記入してはいるが、諸所で介助者の意見となってしまう。結果、介助者の意見を適当にアンケートに反映させてしまっている現状がある。
矢野副会長	・介助者が記入できる設問を増やした方がよいのか。
山田満里子	・実際に自分が回答するつもりでアンケートのチェックをしたが、アンケートの分量が多い印象を受けた。本人の代筆に加え、介助者の設問が増えるとさらに厳しくなってしまう。
矢野副会長	・介護している時の困っていることがあったら、具体的に記載を・・・という自由記載の欄を作ってはどうか。
山田満里子委員	・介助者側の記載欄ができるということは、障害のある人向けのアンケートは、本人の気持ちに徹する形での記載でよいのか。

矢野副会長	・なるべくそのようにお願いしたい。
伊藤会長	・介助者の気持ちを反映できるよう自由記載欄を設定することでどうか。
一同	・異議なし。
ジャパン総研 (井口氏)	・介助者の自由記載欄を入れる部分は、どの設問の後になるのか確認したい。
矢野副会長	・問7のあとに入れるとよいのではないかな。
山田満里子委員	・最終ページの項目の最後に自由欄を設定する形ではどうか。
矢野副会長	・すでに自由記述欄がある。これは、どちらの立場でも記入できる欄としてあるのではないかな。
佐久間委員	・本人が記入できる欄と介助者が記入できる欄の二つに自由欄を分けることはできるのかな。
ジャパン総研 (井口氏)	・対応可能。
伊藤会長	・自由欄を介助者と分けて自由記載欄を設定する。
一同	・異議なし。
森田委員	<p>・P. 17の問42と問43の「9. 手話通訳、要約筆記」がボランティアに限定されているのはどうしてなのか。手話通訳や要約筆記は地域生活支援事業に入っている。</p> <p>・福祉サービスや有償サービスをボランティアにお願いしたいとする選択肢の方がよいのではないかな。疑問を感じる。</p>
伊藤会長	・選択肢を分けて設定した方がよいかな。
吉沢委員	・かつてはボランティア登録でやっていたこともあったが、今は仕事として従事している。そのニーズを調査したいのかな。
斎藤委員	・純粋なボランティアと考えるのか、福祉サービスの担い手として考えるのか。
大久保委員	・ここで言っているボランティアはどのような意味なのか。
矢野副会長	・「無償の」ということになる。
吉沢委員	・ボランティアセンターでも要望に応えられるような人材の整備はされていない。この設問によって、そのニーズが浮き彫りになったとしても、果たして応えられるのかな。
伊藤会長	・対応できないものは削除する方がよいのかな。
吉沢委員	・そうとも言い切れない。
大久保委員	・この内容を回答してもらって、行政側が何をしなければならないのかを判断していくものなのか。そこがはっきりしていないのであれば、単なる実態調査に過ぎない。
佐久間委員	<p>・福祉サービス以外のものをアンケート対象者がどのように利用しているのかということについて把握する設問になっている。</p> <p>・手話通訳や要約筆記が地域生活支援事業に入っているが、純粋な無償のボランティアとして答えてもらえればよいのではないかな。</p>
一同	・異議なし。

(2) 第2期第3回～第8回自立支援協議会課題検証まとめの協議

伊藤会長	・アンケートに反映させるため、これまでの自立支援協議会のまとめを事務局で作成した。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の関係で、検討はできないが「第２期第３回～第８回自立支援協議会課題検証まとめ」を参照していただきたい。
事務局（熊倉施設長）	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から簡単に報告をする。「第２期第３回～第８回自立支援協議会課題検証まとめ」を参照。第３回のみ異なるまとめ方となっているが、第４回～第８回までは同様のまとめ方となっている。 ・左側が事務局から制度についての説明などを行なった現状について記載した。右側は協議された内容や課題を記載した。 ・アンケートへ反映する必要性について◎・○・△として記載。しかし、その判断の難しさもあり、途中で中断している。◎については、自立支援協議会の会議の中で、アンケートに反映できればよいというはっきりと検討がなされた部分。これに関しては、すべての内容に印をつけている。 ・以前、山田満里子委員から出された要援護者の支援の内容を、アンケートに反映させる方向で検討がなされていたと思うがその点はどうなのか。
山田満里子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに検討はしたが、団体向けのアンケートに意見として記入するという結論だったと理解しており、記入するつもりでいる。
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・よろしく願いたい。
事務局（熊倉施設長）	<ul style="list-style-type: none"> ・親御さんに聞きたいという項目が少ない印象を受けたため、その辺りのことが気になり発言させていただいた。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の関係でこの内容について会議中に確認することは難しい。 ・もう一度１月の自立支援協議会の会議でアンケートについて検討することができる。それまでに確認をお願いしたい。
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・１２月の議会の中で議員から、保健福祉総合計画の中で発達障害についてはどのような位置づけになっているのかという質問があった。 ・以前の会議で、秦委員からも小金井市でどのくらいの発達障害の方がいるのかという実態把握について意見が出されていた。 ・障害者手帳保有者すべてにアンケート調査を実施。そのアンケートに重複して発達障害のある人の設問を設定する。その結果により、発達障害の種類や人数を把握することが可能として回答している。 ・どの部分に発達障害の設問を入れるのかということを検討し、そのアンケート案を作成する。その案を委員各位へ事前に知らせる形を取りたい。 ・発達障害については、障害者の範囲に含まれるということを法律上明記することになった。資料「障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律の概要」のP.4に「③障害者の範囲の見直し」についての記載があるので確認をお願いしたい。 ・発達障害について小金井市では、子ども家庭部を中心という話はまでは決まっているが、障害福祉課としての位置づけがどうなるのかということも明記する必要があると考えている。 ・まずは、手帳保有者の中で発達障害の方がどのくらいの数なのか調査をしたいと考えている。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人向けのアンケートには、ルビの記載についてお願いしたい。
ジャパン総研（井口氏）	<ul style="list-style-type: none"> ・対応する。
案委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「第２期自立支援協議会 これまでのまとめ」はどのような扱いになるのか。

事務局（熊倉施設長）	・あくまでも、自立支援協議会で検討するためのまとめとして作成したもの。
秦委員	・部外秘でお願いしたい。
伊藤会長	・「第2期自立支援協議会 これまでのまとめ」の取り扱いに注意をお願いする。

3. 今後の会議開催日時・内容等の確認

伊藤会長	・佐久間委員からお願いしたい。
佐久間委員	・「小金井市保健福祉総合計画策定委スケジュール」を参照していただきたい。 障害者専門部会が自立支援協議会のスケジュールとなる。 ・次回1月17日（月）にアンケートの最終のまとめを行ない、策定委員会にかけることになる。2月の上旬にアンケートの印刷となる予定。
伊藤会長	・今後の自立支援協議会の日程について確認する。1月は17日（月）、2月は14日（月）、3月は28日（月）となっている。
事務局（熊倉施設長）	・次回の会場は、本日と同じ前原暫定集会施設A会議室にて開催する。

4. その他

（1）事務連絡

伊藤会長	・次回の会議は、アンケートの検討の最終となるため、1時間延長し、14:00～17:00にて開催したい。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・その他、事務連絡等お願いしたい。
事務局（熊倉）	・配布した第8回議事録（仮）の確認をお願いしたい。加筆修正等は、1月7日（金）までに事務局までご連絡いただきたい。

以上